



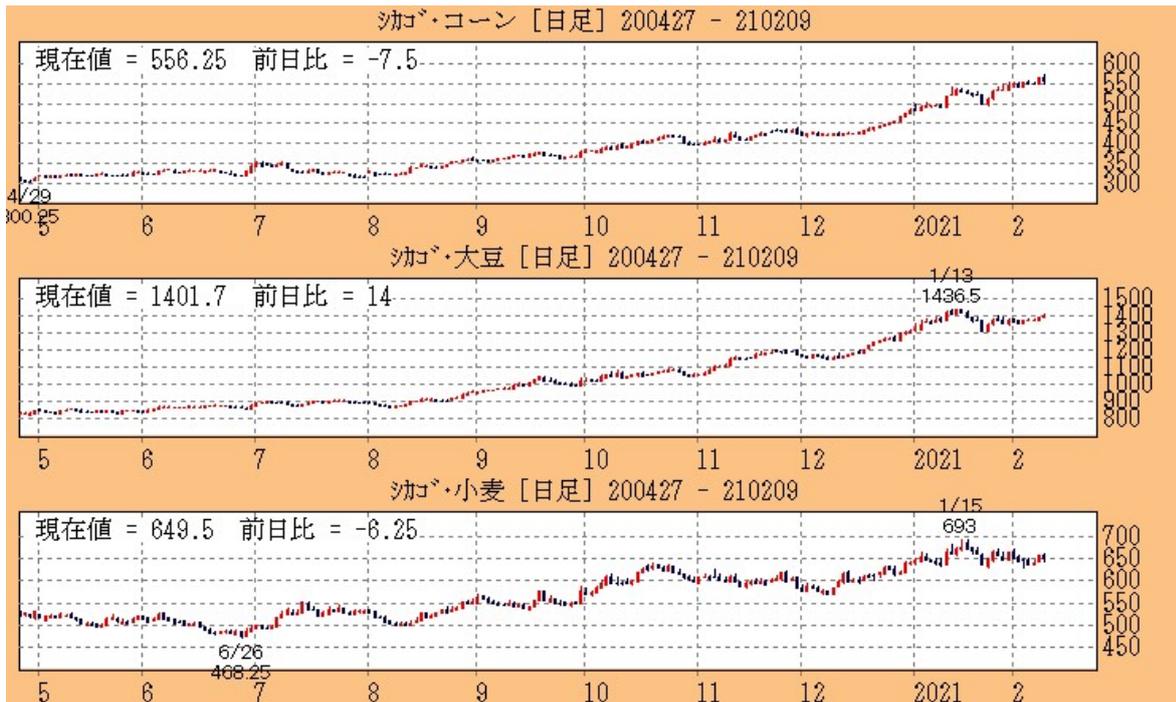
週刊穀物



世界の穀物情報がここに凝縮されています。
毎週水曜日夕方発行

トウモロコシは反落、大豆は続伸

発行日 : 2021/2/10



9日のシカゴトウモロコシ3月限は前日比▲7.50セント安の556.25セントと反落。取引レンジは545.00セント～574.25セント。米農務省の需給報告の発表前に、中心限月としては2013年6月28日以来の最高値となる574.25セントまで上昇したが、米農務省が発表した2月の穀物需給で米国の期末在庫を引き下げたものの、市場予想を大きく上回り、懸念されるほどの需給引き締めではなかったことから売られた。直前に7年半ぶりの高値をつけたことからストップを巻き込んだ反動の売りも出ると、545セントまで急落した。ただ、その後は中国の輸入急増が意識され、下げ幅を縮小したが戻りは鈍くマイナスで引けた。

9日のシカゴ大豆3月限は前日比+14.00セント高の1401.75セントと続伸。取引レンジは1377.50セント～1409.50セント。米農務省の需給報告で期末在庫予測を下方修正し、過去最低の水準まで引き下げられたことで需給逼迫懸念が強まり、買いが優勢となった。また、輸出予測を上方修正したことも支援要因。発表直後にはコーンや小麦の急落に追随する格好で急落し、一時1377セントまで下落したが、その後は大豆の強い需給報告を好感して、すぐにプラス圏に切り返し、引けにかけて14ドル台を回復した。

9日のシカゴ小麦3月限は前日比▲6.25セント安の649.50セントと反落。取引レンジは639.75セント～660.50セント。トウモロコシの下げが弱材料となった。また、米農務省の需給報告で2020～21年度の米小麦期末在庫予測を据え置かれるなど、全項目が据え置きとなったことから反落した。



TOPICs ブラジルのトウモロコシ需給 by USDA 21年1月29日

| 2021年1月29日 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 千トン・千ヘクタール | 13/14年度 | 前年比 | 14/15年度 | 前年比 | 15/16年度 | 前年比 | 16/17年度 | 前年比 | 17/18年度 | 前年比 | 18/19年度 | 前年比 | 19/20年度 | 前年比 | 20/21年度 | 前年比 |
| 収穫面積 | 15,800 | +622 | 15,750 | ▲50 | 16,000 | +250 | 17,600 | +1,600 | 16,600 | ▲1,000 | 17,500 | +900 | 18,500 | +1,000 | 19,500 | +1,000 |
| 期初在庫 | 9,150 | +3,874 | 13,972 | +4,822 | 7,842 | ▲6,130 | 6,769 | ▲1,073 | 14,019 | +7,250 | 9,615 | ▲4,404 | 5,208 | ▲4,407 | 4,408 | ▲800 |
| 生産 | 80,000 | +7,269 | 85,000 | +5,000 | 67,000 | ▲18,000 | 98,500 | +31,500 | 82,000 | ▲16,500 | 101,000 | +19,000 | 102,500 | +1,500 | 105,000 | +2,500 |
| 輸入(穀物年度) | 800 | ▲86 | 800 | +0 | 3,400 | +2,600 | 854 | ▲2,546 | 915 | +61 | 1,659 | +744 | 1,200 | ▲459 | 2,000 | +800 |
| 輸入(暦年) | 846 | ▲96 | 534 | ▲312 | 1,566 | +1,032 | 2,439 | +873 | 943 | ▲1,496 | 1,189 | +246 | 1,346 | +157 | 1,500 | +154 |
| 供給合計 | 89,939 | +11,143 | 99,303 | +9,364 | 78,265 | ▲21,038 | 106,123 | +27,858 | 96,934 | ▲9,189 | 111,974 | +15,040 | 108,908 | ▲3,066 | 111,408 | +2,500 |
| 輸出(穀物年度) | 20,967 | ▲500 | 34,461 | +13,494 | 13,996 | ▲20,465 | 31,604 | +17,608 | 24,341 | ▲7,263 | 39,766 | +15,425 | 35,500 | ▲4,266 | 37,000 | +1,500 |
| 輸出(暦年) | 22,041 | +9,356 | 21,909 | ▲132 | 35,382 | +13,473 | 19,794 | ▲15,588 | 25,115 | +5,321 | 39,078 | +13,963 | 34,187 | ▲4,891 | 36,000 | +1,813 |
| 飼料用その他 | 46,000 | +1,000 | 48,000 | +2,000 | 49,000 | +1,000 | 51,000 | +2,000 | 54,000 | +3,000 | 57,000 | +3,000 | 58,500 | +1,500 | 60,000 | +1,500 |
| 食料用需要 | 9,000 | +1,500 | 9,000 | +0 | 8,500 | ▲500 | 9,500 | +1,000 | 9,500 | +0 | 1,000 | ▲8,500 | 10,500 | +9,500 | 11,000 | +500 |
| 国内需要合計 | 55,000 | +2,500 | 57,000 | +2,000 | 57,500 | +500 | 60,500 | +3,000 | 63,500 | +3,000 | 67,000 | +3,500 | 69,000 | +2,000 | 71,000 | +2,000 |
| 期末在庫 | 13,972 | +9,143 | 7,842 | ▲6,130 | 6,769 | ▲1,073 | 14,019 | +7,250 | 9,093 | ▲4,926 | 5,208 | ▲3,885 | 4,408 | ▲800 | 3,408 | ▲1,000 |
| 期末在庫率 | 18.4% | +0 | 8.6% | ▲9.8% | 9.5% | +0.9% | 15.2% | +5.8% | 10.4% | ▲4.9% | 4.8% | ▲5.5% | 4.8% | ▲0.0% | 4.2% | ▲0.6% |
| 生産+輸入(①) | 80,789 | +7,269 | 85,331 | +4,542 | 70,423 | ▲14,908 | 99,354 | +28,931 | 82,915 | ▲16,439 | 102,659 | +19,744 | 103,700 | +1,041 | 107,000 | +3,300 |
| 国内消費+輸出(②) | 75,967 | +2,000 | 91,461 | +15,494 | 71,496 | ▲19,965 | 92,104 | +20,608 | 87,841 | ▲4,263 | 106,078 | +18,237 | 103,187 | ▲2,891 | 107,000 | +3,813 |
| 需給バランス(①-②) | +4,822 | +5,269 | ▲6,130 | ▲10,952 | ▲1,073 | +5,057 | +7,250 | +8,323 | ▲4,926 | ▲12,176 | ▲3,419 | +1,507 | ▲1,700 | +1,719 | +1,719 | +3,419 |
| 単収 | | | | | 4.1875 | +4.1875 | 5.5966 | +1.4091 | 4.9398 | ▲0.6568 | 5.7714 | +0.8316 | 5.5405 | ▲0.2309 | 5.3846 | ▲0.1559 |

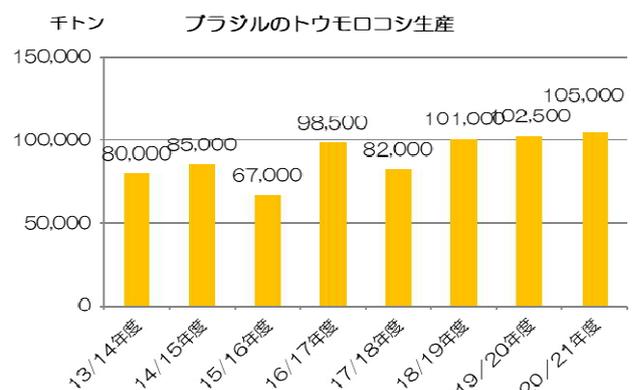
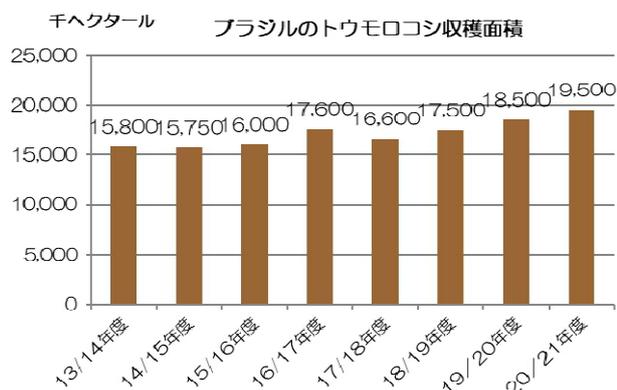
トウモロコシの生産

生産量は減少：一期作目の干ばつ被害と、二期作目の作付け遅れによる

2020/21年（2021年3月～2022年2月）のトウモロコシ生産量予想は前回予想から▲200万トン低下して1億500万トンの予想。一期作目のトウモロコシの単収が減少したことで、二期作目の作付けが遅れていることが理由。それでも19/20年度に比べれば、+250万トン、+2.4%上回り、過去最大の生産量となっている。

作付面積は、+100万ヘクタール増加し、過去最高の1,950万ヘクタールになると思われる。一期作目のとうもろこしの単収が低下し、また生産量の大半を占める二期作目の「サフリンハ」の作付けが遅れるためである。ブラジルのトウモロコシ栽培面積予想が+1百万ヘクタール拡大し、過去最高の1億9500万ヘクタールになると思われる。サフリンハの作付けが遅れていることが懸念されるが、農家は過去最高の価格を享受し乾季に生産がずれ込んで単収が減少するリスクを冒して作付面積を拡大している。

ブラジル国内の養鶏、畜産用飼料需要が旺盛で、またトウモロコシによるエタノール生産も増加しており、国内需要が拡大していることから、今後のトウモロコシ需要の増加が期待されている。また輸出も好調で、こうした需要の拡大はトウモロコシ価格を過去最高値に押し上げて今後も2021年を通じて価格は高止まりすると思われる。





ブラジルのトウモロコシ生産の特徴

生産時期は3つに分かれる サフリンハと呼ばれる二期作目が全体の75%を占める

| ブラジルのトウモロコシの生産時期 | | | | | | | | | | | | |
|------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| 1期作目 | 収穫 | | | | | | | | 作付 | | 生育 | |
| 2期作目 | 作付 | | 生育 | 収穫 | | | | | | | | |
| 北部での生産 | | | | 作付 | 生育 | 収穫 | | | | | | |

トウモロコシはブラジルの広大なすべての州で栽培されており、収穫は多様性がある。トウモロコシは、いくつかの異なる時期に植えられ、収穫されている。伝統的にブラジル南部では、その地域に集中している家畜・家禽用の飼料として栽培されている。ブラジル南部のとうもろこしは、9月から12月にかけて植えられ、その後収穫されるのが一般的であったが、二期作目として、翌年の1月に作付けして5月にも収穫される。またブラジル北部では4月から6月に作付けされて9月に収穫されるトウモロコシもあり、三つの生産周期が混在している。一期作目は、“フルシーズン”または夏のトウモロコシと呼ばれているが、総生産量に占める割合は25%程度である。

1970年代から1980年代にかけて中央西部地域に農業生産が拡大していく中で、ブラジルの農民は、温暖な生育地であること、雨季が長いことから、同じ土地に年に2回作物を植えるようになった。雨季は通常、夏の間は大豆の栽培をサポートし、続いてトウモロコシの栽培をサポートする。二期作目のトウモロコシは、南半球の秋に作付けして冬に収穫するトウモロコシであるが、ポルトガル語で「小さな収穫」を意味する「サフリンハ」とも呼ばれている。もともとはブラジルの2つのトウモロコシのうち、小さい方の作物だったが、近年中国からの強い大豆の引き合いによって、大豆栽培が拡大し、大豆の収穫後に作付けするサフリンハのトウモロコシは、高収益性から人気のある作物となっている。今日では、ブラジルのトウモロコシ生産量の約4分の3をサフリナが占めている。このシェアは、ブラジル南部の生産者の増加に伴い、拡大を続けている。年間1つの作物しか植えることができなかった多くの農民が、夏のトウモロコシ栽培の代わりに大豆を作付けし、それを収穫した後トウモロコシを作付けしている。サフリンハのトウモロコシは通常1月から3月に作付けされ、6月から収穫される。

今年の問題は1期作目の干ばつ被害と、2期作目の作付けの遅れ

今年のブラジルのサフリンハトウモロコシは、乾燥状況の影響を受けることが予想されており、南部および中央西部地域におけるブラジルの大豆作物の多くの作付けの遅れは、大豆の収穫を2-3週間遅らせることになるだろう。その影響で、サフリンハトウモロコシの作付けが遅れることになり、単収に重大な影響を及ぼす可能性がある。

昨年20/21年度の1期作目のトウモロコシは、気象がラニーニャの影響を受けて南部ブラジルで2020年8月～11月にかけて極度の乾燥気候となった。降雨の始まる時期も遅れて、土壌水分は十分ではなかった。多くの一期作目のトウモロコシ生産者はこの乾燥気候に大きな影響を受けた。全国で同様な事態となったわけではないが、リオグランデス州やサンタカタリナ州では深刻な乾燥気候の影響があった。干ばつの影響を受けた農家は再度トウモロコシを作付けする農家と大豆を作付けする農家に分かれた。後から作付けした分には乾燥の影響は見られない。12月か1月前半にかけて南部ブラジルでは降雨が平年並みか平年以上にあった。それでもいくつかの地域では、一期作目のトウモロコシで二度目の作付けし直しをしなかった農家では最大70%もの作物に干ばつの影響が表れている。こうしたトウモロコシは貯蔵用牧草となっている。1月末の時点では一期作目の収穫は2割程度で、リオグランデス州地方では5%に満たないところもある。

サフリンハの15～25%の作付けが間に合わないが、農民は過去最高値なので作付け強行

今年の二期作目のトウモロコシについても乾燥気候の影響は続くと思われる。ことに大豆の収穫が遅れることの影響を受けやすい。

現在サフリンハの作付けは、それぞれの地域の理想的な植え付け時期に間に合うように急いで行われている。南部マト・グロッソ・ド・スル州では2月の第3週頃に作付けは終わる見込みである。6月と7月に気温が零下になる可能性があるため、パラナ州南部では、マトグロッソ州とゴイアス州では2月下旬までに作付けを終わらせたい。乾期が始まる5月初旬に雨が降り出す前に、2月に植えられたとうもろこしは、乾期を迎える。2月下旬以降に植えられてしまったトウモロコシは、干ばつや低温の影響を受けるリスクが高く、作付けが遅れると政府のプログラムの下では作物損失の支払いの対象外となる可能性がある。業界関係者によると、2020/21年度のサフリンハ作物の約15～25%が理想的な作付け時期には間に合わない可能性があるとのこと。理想的な植え付けの期間が過ぎて、ほとんどの農民はトウモロコシ価格が過去最高に高いため、少々のダメージは受けても作付けした方が得だと思っている。旺盛な飼料用の国内需要とともに、リアル安による輸出ドライブにより価格は年内は高値が維持されると見ている。2021年1月の平均価格は、60キログラムの袋当たり83.69リアル（15.65米ドル）である。これは前年同期より+64パーセント高く、2019年1月より+115パーセント高い。農民はサフリンハの収穫量が少なくても、堅調な需要に支えられた価格は高止まりするだろうと読んでいる。



今年の問題は1期作目の干ばつ被害と、2期作目の作付けの遅れ

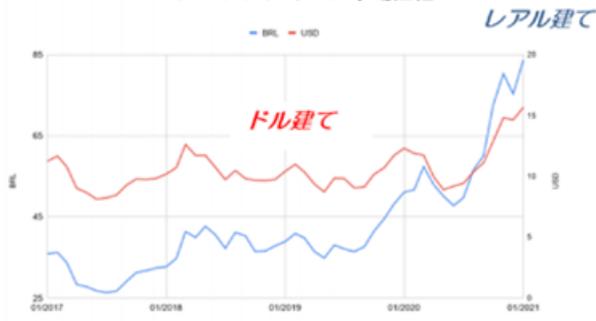
中西部のマトグロッソ州はブラジル最大のトウモロコシ生産地で、生産量全体の3分の1を占めるが、その大半が大豆を収穫した後のサフリンハトウモロコシである。今年、この州の大豆生産の約半分の土地でサフリンハのトウモロコシが作付けされる見込みである。一部の農民は大豆の収穫の後に綿花を作付けするところもあるが、特別な器具や綿花生産のための資金が不足している農家が多い。綿花よりトウモロコシの方が収益性が高く、特別な値の張る器具は必要なく、大豆と同じ製法で栽培できるので、大半の農民は大豆の後にサフリンハトウモロコシを栽培するだろう。

ラニーニャが継続しており、その影響で夏場に降雨が降る時期が遅くなったため、土壌水分が補充さえるのが遅れ、マトグロッソ州における20/21年度大豆の作付けは10月後半になってからとなり、マト・グロッソ農業経済研究所（IMEA）のデータによると、過去5年平均より遅れている。その結果、大豆の収穫は遅れており、1月中旬時点での収穫面積は2%強で、この時期の5年間の平均12%近くを大きく下回っている。マトグロッソ州のサフリンハのトウモロコシの作物は、1月中旬の時点で約1%しか終わっておらず、5年前に比べて平均で9.6%遅れている。

仮に農民がサフリンハの作付けを急いだとしても、5つの州で2月第3週までの理想的な期間でのサフリンハの作付けはできないと見られている。そのため単収は悪くなると思われる。農民は夏の雨が5月から6月まで続いて欲しいと望んでいるがそれは通常のことではない。長期気象予想ではラニーニャは21年半ばまで続くとしている。にもかかわらず、マトグロッソ州では高価格に刺激されて、サフリンハトウモロコシの作付け面積は+5%拡大して550万ヘクタールになると見られている。

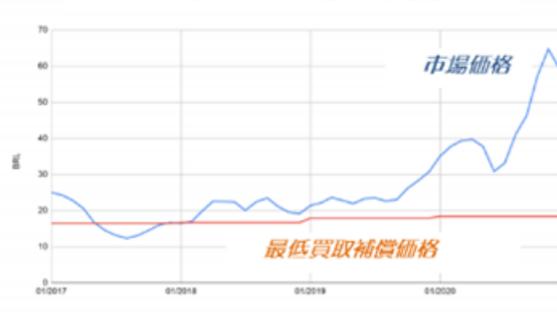
マトグロッソ州の11月のトウモロコシ価格はCONABによれば平均64.49リアル（11.95ドル）で過去最高値となった。12月には少し反落したが、それでも前年に比べて倍になっている。

ブエノスアイレス市場価格



Source: University of Sao Paulo Center for Advanced Studies in Applied Economics (CEPEA)

マトグロッソ州のトウモロコシ価格

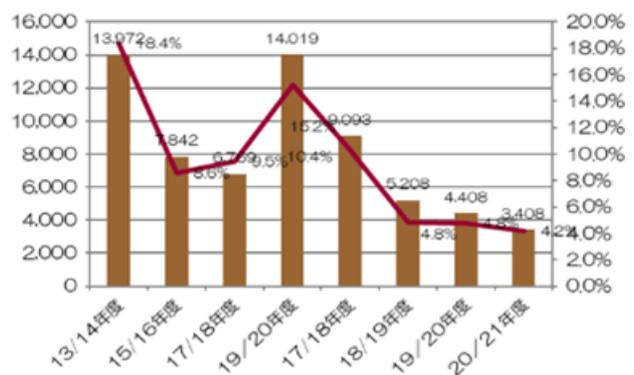


Data Source: CONAB

トン/ヘクタール ブラジルのトウモロコシの単収



千トン ブラジルのトウモロコシ期末在庫と在庫率





パラナ州のサフリンハの作付けは1月中旬で1%

パラナ州はブラジルで二番目に多いトウモロコシの生産州であり平均15~20%を生産している。その75~80%が大豆栽培の後のサフリンハトウモロコシである。パラナ地方経済局によれば、パラナ州では1月中旬時点でサフリンハの作付けは1%に満たない状況である。高価格を背景にパラナ州の農民は昨年よりサフリンハの作付け面積を+2%増加させると見られる。パラナ州の11月のトウモロコシ価格は67.5レアル（12.47ドル）であった。マトグロッソ州同様12月に少し反落したが、それでも前年同期比+75%高となっている。価格は21年も高止まりする見込みである。今後は降雨がどの程度降るかが注目されている。

パラナ州のトウモロコシ価格



ブラジルのトウモロコシの輸出

レアル安で輸出増加

ブラジルの19/20年度の輸出量は3550万トンと、前回の予測よりも+150万トン上方修正しているが、それでも過去最大の3900万トンだった18/19年度に比べて▲490万トン、▲11%減少している。

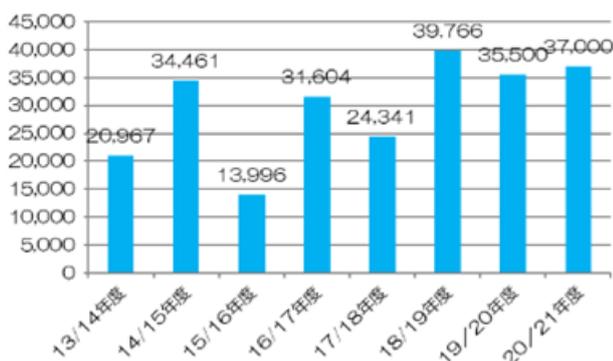
20/21年度の輸出をUSDAは前年比+150万トン増の3700万トンと見ている。生産が増加していることやブラジルレアル安が影響すると見ている。対ドルブラジルレアル価値は、2020年大きく下落した。新型コロナウイルスの影響で失業率が増加し、経済成長率が落ち込んだためである。1月後半のレートは5.43レアル/ドルで、前年同期比▲20%低下している。レアル安により海外市場におけるブラジル産農産物の価格競争力が増している。トウモロコシ、小麦、コメなどいくつかのレアル建て農産物価格は大きく値上がった。IMEAによれば、20/21年度産穀物の3分の2が1月までに商品化され、輸出価格は平均45.5%上昇している。典型的な年齢がマトグロッソ州のトウモロコシは大半が輸出に回されている。

18/19年度の旺盛な輸出需要の後、2020年3月~5月は大きく輸出量が落ち込み、この時期の輸出量は52万7,419トンで、過去7年で最低の3カ月の輸出量だった。これは大豆の輸出が好調でこの時期の港湾施設を満杯にさせてしまったためである。大豆輸出が落ち着くと、2020年の後半には3100万トンのトウモロコシを輸出した。11月には480万トン、12月は500万トンであった。これにより在庫が急減し、国内価格上昇の端緒となった。

ルート163号線の舗装完成

マトグロッソ州の輸出が多かった一つの要因として、ルート163号線、いわゆる大豆ハイウェイの舗装が完了したことが挙げられる。この道路は北部からマトグロッソ州を越えパラ州まで1000キロに及びハイウェイである。先端は三利率場の河の皆とに達している。ここで主な穀物商社はTapajo河の港湾施設で穀物を船積みする。2019年11月ブラジル政府は、軍事土木建設大隊がアスファルト舗装を行ったと発表した。未舗装道路の最後の数キロは、道路が開通してから40年以上を要した工事だった。完全に舗装される前は、トラックの運転手は泥の中で立ち往生する危険に直面していた。雨季の間中、ブラジル軍は何百人もの人々に物資を空輸しなければならなかった。道路の舗装されていない部分が乾くまで何日も待たなければならず、足止めされたトラック運転手が長い列を作っていた。こうした未舗装道路では、天気が良くても、旅行は数日から1週間かかっていた。昨年の作物の運送では、マトグロッソ州のシノップからパラ州のミリツバまで、わずか14時間だった。

ブラジルのトウモロコシ輸出



ブラジル月次とうもろこし輸出量



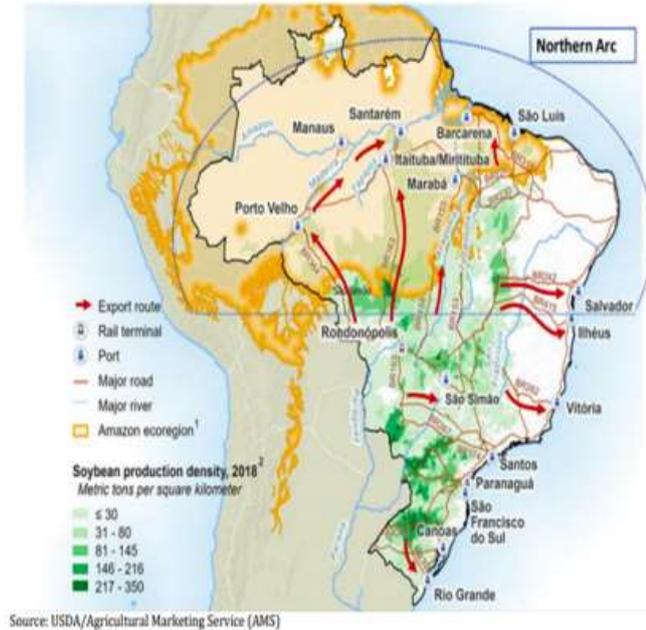
Data Source: Brazilian Foreign Trade Secretariat (SECEX)



サンパウロ大学によれば、2019年7月から2020年7月までの間に、マトグロッソ州ソリスからパラ州ミリツバまでのトラック運賃は236.35レアルから、205.18レアル（38.69ドル）に▲13%下落した。トラック運転手は、毎月より多くの業務を行うことができるため、価格の低下が発生した。ディーゼル燃料の使用量が減り、163号線の舗装により車両のメンテナンスが少なく済むようになっている。ブラジルのナショナル交通インフラ部（DNIT）の試算によると、同路線の2020年のトラック輸送量は前年同期比で3分の1増加した。そのため、マトグロッソからブラジルの北部を経由して輸出されるトウモロコシは大幅に増加した。

163号線の舗装によりマトグロッソ州のトウモロコシの価格競争力は国際市場で増し生産者の懐を潤した。将来Ferrograo（穀物鉄道）が163号線沿いに開通すれば、更に利便性は高まる。しかしブラジル政府は建設に3億ドルかかるとしており、少なくとも建設に5年かかるといふ。しかしこの鉄道が完成すれば、3500万トンの穀物や油糧種子を輸送することは簡単になり、輸送コストは削減されマトグロッソ州の農産物競争力は増すだろう。

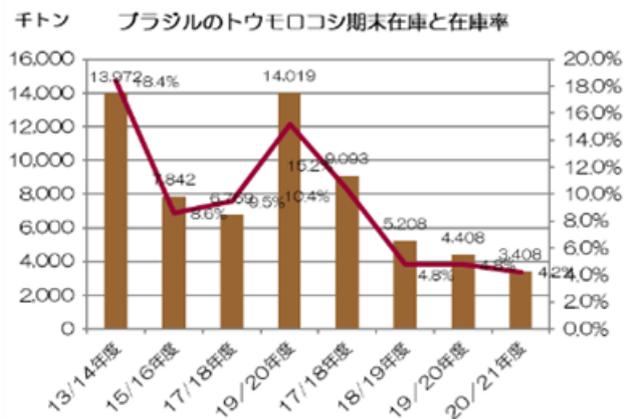
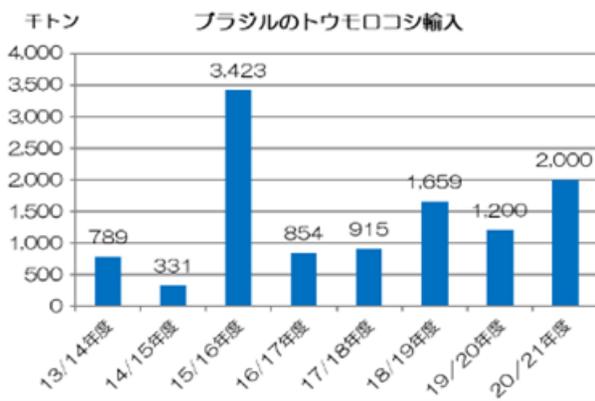
ブラジル国内物流ルート



ブラジルのトウモロコシの輸入

需給ひっ迫で輸入拡大・政府が3月まで輸入関税を免税

19/20年度のブラジルのトウモロコシ輸入量は10万トン上方修正し、120万トンとした。国内の鶏肉や家畜の飼料需要の増加と、輸出の急速な拡大により、トウモロコシ在庫がひっ迫し始めているためである。20/21年の予測も前年比+80万トン増の200万トンに上方修正した。2020年の最後の四半期にブラジルのトウモロコシ輸入は急増している。国内の養鶏・家畜用飼料の需要が増大したため、10月から12月の間に65万トンが輸入された。10月16日、これにこたえてブラジル政府は、Mercosur貿易圏以外の国からのトウモロコシと大豆輸入関税課税の停止を行った。2021年3月31日まではトウモロコシの輸入関税8%は免税となる。その輸入割当には制限はない。





遺伝子組み換えトウモロコシは実質輸入が困難

2020年11月3日、ブラジル農業省（MAPA）は新たな規制を発表した。遺伝子組み換え（GE）トウモロコシや大豆の輸入を促進するために、飼料として使用されるトウモロコシや大豆の輸入許可証に記載されなければならない情報を変更した。ただし、バイオテクノロジーイベントの承認プロセスを変えるものではない。その件は、National Technical Biosafety Commission (CTNBio)という独立機関が担当している。

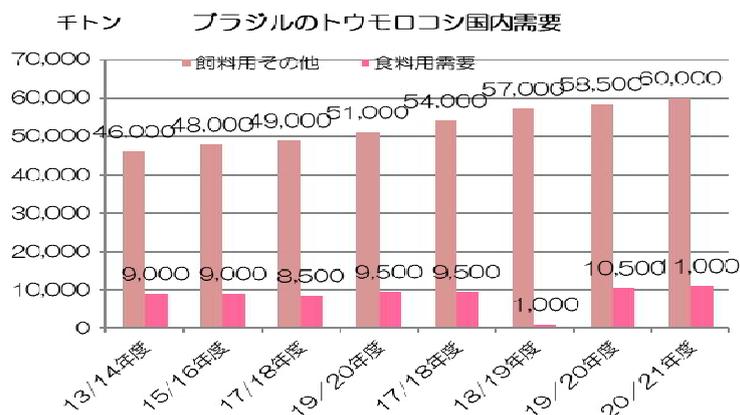
当時の報道に反して、ブラジル農業省の規制では遺伝子組み換え作物の同等性は確立されていない。米国を含む他の国で承認されており、CTNBioの承認プロセスされておらず、依然として認可されていないため、メルコスール貿易圏外からのトウモロコシの輸入としての米国産バイオテクノロジーを用いたトウモロコシは、ブラジルでのGE品種の承認が必要なため、動きが鈍化している。米国で栽培が承認されているバイオテクノロジー品種は、by the International Service for the Acquisition of Agri-Biotech Applications (ISAAA)に登録されているもので少なくとも9種類ある。そうした品種をブラジルに輸入する場合、輸入者は、輸入ライセンスを取得する前に、CTNBioに特別な承認リクエストを提出する必要がある。これらの要求はケースバイケースで検討され、承認プロセスが長くなることもあり、であるため、米国産トウモロコシの輸入はこの点で制限されている。ブラジル政府はメルコスール貿易圏外からの輸入を促進しようと努力しているにもかかわらず、米国のトウモロコシのブラジルへの輸出を減少させている。2019/20年のブラジルのトウモロコシ輸入の99.9%は、パラグアイカアルゼンチン産である。

ブラジルのトウモロコシの国内需要

鶏肉と豚肉輸出好調で、養鶏・養豚用飼料需要旺盛

19/20年度のブラジル国内のトウモロコシ消費量の予想を6,900万トンと据え置きした。鶏肉や豚肉の生産、トウモロコシのエタノール部門の拡大が続いている。コロナウイルスのパンデミックに関連した生産の鈍化はあったが、前年同期比で+3%の増加となった。20/21年度についても、ブラジル国内トウモロコシ消費量の予測を前年比+3%増の7,100万トンとしている。中国をはじめとする畜産品の輸出需要が旺盛である。また、ブラジルの中西部地域では、トウモロコシのエタノール生産が増加している。ブラジルのトウモロコシ消費量は、過去20年間で約2倍になった。ブラジルは世界最大の鶏肉輸出国であり、第4位の豚肉輸出国でもある。トウモロコシはブラジルの大規模な鶏肉・養豚用飼料の約60%を占めているため、毎年トウモロコシの大部分を消費している。2020年ブラジルの鶏肉・豚肉生産量は堅調な伸びを示した。2020年の鶏肉生産量は+1.4%増加すると予測しているが、2021年さらに+4%増加すると見ており14.4百万トンを超えると予想する。豚肉生産量は2020年には+3%近く増加し、2021年には+4%増加すると予測している。養豚用のトウモロコシ需要は養鶏用の約半分であるが、急成長が続いている。

動物栄養産業のためのブラジルの国立連合（ポルトガル語でSindracoes）によると2020年の部門別総生産量（とうもろこし等の飼料原料）は+4.7%増の8,110万トンだった。Sindracoesのデータによると、飼料飼料の生産量はブロイラー鶏の飼料生産量は2020年に+3.5%増、産卵鶏の飼料生産量は+5.5%増と養豚用飼料生産量は+5%増加した。





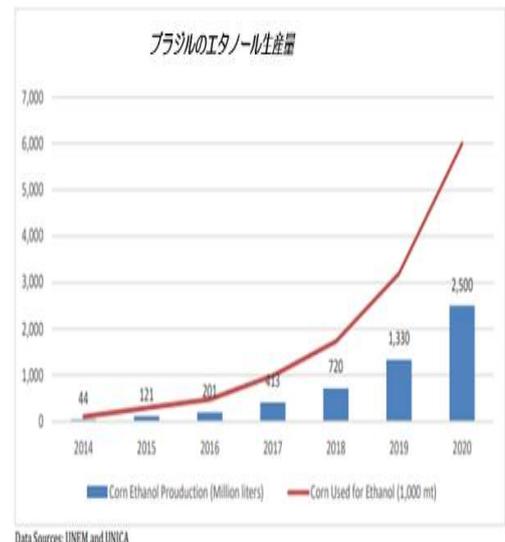
エタノールプラントは16工場あり、なお建設中

ブラジルの19/20年の食品・種子・工業用（FSI）とうもろこし消費量は1,050万トンと予測している。20/21年度は1,100万トンに成長すると予想している。同国のトウモロコシエタノール産業は小規模ではあるが拡大し急成長を遂げている。新型コロナウイルスによる厳しい社会的遠距離化対策が行われ、燃料需要が減少しているにもかかわらずエタノールの価格が下がり、昨年の第3四半期に回復を見せた。ブラジル人はゆっくりと元の生活に戻りつつある。2020年を通じて、ブラジルのトウモロコシエタノール産業は、生産規模の拡張を続けている。今後数年で稼働するトウモロコシのエタノールプラントを建設するための新たな投資を行っている。

ブラジルとうもろこしエタノール連合（UNEM）の推計によると、ブラジルでは約25億リットルのエタノールが生産されている。2020年には、トウモロコシベースのエタノールは、600万トンのトウモロコシを消費している。この数字は、2019年より+90%増である。ブラジルには現在、少なくとも16のトウモロコシエタノール工場があり、マト・グロッソ、ゴイアス、マト・グロッソ・ド・スルなど中西部の州にある。それらのうち少なくとも4つのユニットはトウモロコシオンリーであり、残りはサトウキビとトウモロコシの両方からエタノールを生産するフレックスプラントである。

業界筋の報告によると、他にも少なくとも7つのトウモロコシベースのエタノール工場が計画、開発中、または2年後には生産が開始される可能性がある。現在進行中のプロジェクトがすべて計画通りに建設された場合、ブラジルのトウモロコシのエタノール生産量は年間55億リッターに達し、年間1,300万トンのトウモロコシを消費する。ブラジルとうもろこしエタノール連合（UNEM）の予測によると、2028年までに80億リットルとなり、ブラジルのエタノール生産量の5分の1を占め、2000万トンのトウモロコシを消費するという。

ブラジルにおけるトウモロコシエタノール生産の潜在的な成長性は、地域の燃料需要と余剰燃料を他の地域に輸送する際の物流上の課題と採算性に課題を抱えている。プラントは中西部に集中しているが、既に10の州に供給している。ブラジルの北部・北東部を中心とした地域への販売網の拡大を今後視野に入れており、ブラジル北東部沿岸の人口密集地での販売を開始した。業界初の海外販売も行った。トウモロコシを原料としたエタノールのEU、ペルー、チリへの輸出が開始された。



今後の予想

シカゴトウモロコシ価格は少し反落しているが、ブラジルの状況を見ると今年はまだまだ強いような気がする。なぜなら、ラニーニャの影響で夏場に降雨が少なく、一期作目の生産量が落ち、大豆の作付け遅れから二期作目のトウモロコシの作付けが遅れている。ブラジル国内トウモロコシ価格が高騰しているため、農民は作付けが適正期からはずれても行うようだが、5月以降の寒気に影響を受ける可能性がある。中国の需要が旺盛で、米国の輸出が好調であるなど、大きく下落する要因は少ない。当面は農業フォーラムによる米国の作付け見通しとなるが、これは拡大することだろう。そうしたニュースで反落した時が買い時かもしれない。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス（以下「COMMi」という）が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行っていません。また、いかなる責任を持つものでもありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

発行元：



株式会社コモディティー インテリジェンス 東京都中央区日本橋蛸殻町1丁目11-3-310
 会社電話：03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692
 メールアドレス：kondo@commi.cc